

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第18回幹事会議事次第

- 1 日時：令和3年10月13日（水） 11時00分～11時30分
- 2 場所：オンライン（Web会議システム Zoom）
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、石濱
陪席者：西田（防災科学技術研究所）、松本（〃）、倉谷（〃）、田代（〃）、高田（セコム）、
斉藤（筑波大学）、高野（〃）、秋葉（〃）、鈴木（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

- (1) NTT 宇宙環境エネルギー研究所の入会について……………資料 1
- (2) 令和3年度総会・運営委員会委員の追加について……………資料 2
- (3) Joint Seminar 減災との共同シンポジウム（第5回シンポジウム）の開催について……………資料 3
- (4) 令和3年度活動計画について……………資料 4
- (5) JST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」の申請結果について
- (6) 第4回シンポジウムの申込状況・参画機関参加状況について……………資料 5-1～5-2
- (7) その他

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

- (1) 協働大学院教員の推挙について……………資料 6
- (2) 紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としての
コンソーシアム活動報告の刊行について……………資料 7
- (3) 秋学期における対面授業の実施について……………資料 8
- (4) その他

（配付資料）

- | | | |
|--------|---|-------|
| 資料 1 | NTT 宇宙環境エネルギー研究所 入会届…………… | P.3～ |
| 資料 2 | 令和3年度総会・運営委員会委員名簿…………… | P.4～ |
| 資料 3 | Joint Seminar 減災・R2EC 共同シンポジウム開催概要（案）…………… | P.5～ |
| 資料 4 | 令和3年度活動計画…………… | P.6～ |
| 資料 5-1 | 第4回シンポジウムの申込状況・参画機関参加状況について…………… | P.7～ |
| 資料 5-2 | 第4回シンポジウムポスター…………… | P.8～ |
| 資料 6 | 協働大学院教員の推挙について（依頼）…………… | P.9～ |
| 資料 7 | 紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としてのコンソーシアム活動報告の刊行について…………… | P.10～ |
| 資料 8 | 本学の活動形態の変更に伴う秋学期における対面授業の実施について…………… | P.11～ |

別紙様式1（第5条関係）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 正 会 員 入 会 申 込 書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業
に賛同しますので、入会を申し込みます。

令和3年8月2日

所在地 東京都武蔵野市緑町 3-9-11

機関名 NTT宇宙環境エネルギー研究所

代表者 所長 前田 裕二



令和3年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会委員名簿

(敬称略)

氏名	委員所属等	選出区分
会長 林 春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
副会長 甘利 康文	セコム株式会社 IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
副会長 遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群長 システム情報系教授	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー システム情報系教授	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
佐波 晶	大日本印刷株式会社 ABセンター第3本部 事業開発第2ユニット 技術開発第2部2G グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
柳生 智彦	日本電気株式会社 セキュリティ研究所 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
真城 源学	東急プロパティマネジメント株式会社 BC研究センター 副センター長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡崎 勝彦	NTT宇宙環境エネルギー研究所 企画部長兼レジリエント環境適応研究プロジェクト プロジェクトマネージャー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン 理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
星川 英	一般財団法人電力中央研究所 企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
鎌田 実	一般財団法人日本自動車研究所 代表理事 研究所長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
福島 幸子	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 航空交通管理領域 領域長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
玄地 裕	国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 研究部門長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
佐々木 哲也	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 機械システム安全研究グループ 部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR) Secretary General	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
石濱 悟	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局長 国立大学法人筑波大学 社会人大学院等支援室長	第8条第4項(2) 第9条第4項(2)

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

**Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
共同シンポジウム開催概要（案）**

災害の「地域性」を考える（仮）

日時：2022年2月14日（月）14:00～17:00（受付13:00～）

場所：関西大学 梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8階大ホール+オンライン（予定）

参加無料・要事前登録

<概要>

日本は複雑な地形のもとに多様な地域性が生まれています。災害・防災・減災・レジリエンスを考えたときに、このような地域性はどのように影響するのでしょうか。多角的な視点にたって「災害の地域性」を検討します。

<プログラム>

総合司会：（調整中）

14:00	開会挨拶・趣旨説明 林 春男 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長、 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 会長、 Joint Seminar 減災 共同代表）
14:05	第1部 基調講演 基調講演1「ハードの面から考える地域性 ～風水害の特徴とレジリエンスを中心に（仮）」 （講演者調整中）
14:45	基調講演2「ソフトの面から考える地域性 ～災害文化の特徴とレジリエンスを中心に（仮）」 林 勲男 氏（国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部 教授）
15:25	第2部 パネルディスカッション パネルディスカッション「地域性を考えた日本の減災・レジリエンスのあり方（仮）」 モデレーター：遠藤 靖典 氏（レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 副会長、 筑波大学システム情報系 教授、システム情報工学研究群長） 登壇予定者：林 勲男 氏（国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部 教授） 河田 恵昭 氏（関西大学 社会安全学部 特別任命教授） 林 春男 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長） 他、1名調整中
16:55	閉会挨拶 河田 恵昭 氏（関西大学 社会安全学部 特別任命教授、 Joint Seminar 減災 共同代表）

青字：日程等確定

赤字：日程等未定

令和3年度年間活動計画

年月	総会・運営委員会	幹事会	リスク・レジリエンス 工学学位プログラム (前期：博士前期課程 後期：博士前期課程)
令和 3年 4月		第16回幹事会 4月13日(火) 11:00-12:00 オンライン (Zoom)	オープンキャンパス 4月18日(日) オンライン
5月			
6月	第4回総会・情報交換会 6月8日(火) 13:30-15:30 オンライン (Zoom)		
7月		第17回幹事会 7月20日(火) 11:00-12:00 オンライン (Zoom)	前期推薦入試・後期内部進学入試 7月1日(木)
8月			後期入試 8月18日(水) 前期入試 8月19日(木) 社会人特別選抜 8月21日(土)
9月			【参考】筑波会議 2021 9月21日(火)～30日(水) ハイブリッド形式(オンライン およびつくば国際会議場)
10月	第4回シンポジウム・第18回幹事会・第11回運営委員会 10月13日(水) オンライン (Zoom) 第18回幹事会 11:00-11:30 第11回運営委員会 11:30-12:30 第4回シンポジウム 13:30-17:00		
11月			
12月			
令和 4年 1月			社会人特別選抜 1月29日(土) 前期入試 1月31日(月)
2月	Joint Seminar 減災との共同シンポジウム (第5回シンポジウム) 2月14日(月) 14:00-17:00 関西大学 梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8階大ホール +オンライン (予定)		後期入試 2月1日(火)
3月	第19回幹事会・第12回運営委員会 3月 日() オンライン (Zoom)		

(備考)

※令和2年度は、総会1回、運営委員会1回、幹事会4回を開催。

本案では、総会1回、運営委員会2回、幹事会4回を想定。

※運営委員会・総会未開催の参画機関：

日本電気株式会社、東急プロパティマネジメント株式会社、DRI ジャパン、電力中央研究所、電子航法研究所、労働安全衛生総合研究所

資料5-1

第4回シンポジウムの申込状況・参画機関参加状況について

令和3年10月11日(月) 17時 00分現在

日時：令和3年10月13日(水) 13:30~16:40

場所：オンライン（Zoomウェビナー）

【参画機関】

（網掛けは欠席連絡）

機関名	人数
セコム株式会社	4
大日本印刷株式会社	1
日本電気株式会社	1
東急プロパティマネジメント株式会社	2
一般財団法人 DRIジャパン	3
一般財団法人 電力中央研究所	0
一般財団法人 日本自動車研究所	1
国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所	1
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	2
国立研究開発法人 防災科学技術研究所	17
独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	1
National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR, 台湾)	4
国立大学法人 筑波大学	39
	76

【一般参加】

機関名	人数
札幌市、復興庁、大槌町、美馬市危機管理課、文部科学省、四日市市消防本部、川越市保健医療部健康づくり支援課、足利市役所健康福祉部健康増進課、岩手県金ケ崎町役場保健福祉センター、茨城県警察、富士通(株)、MS千葉埼玉(株)、ラジオNIKKEI、読売新聞社、(株)カナミックネットワーク、三井不動産(株)、大塚製薬(株)、(株)つくばウエルネスリサーチ、北条情報合同会社、オンサイト計画設計事務所、東急建設(株)、玉野総合コンサルタント(株)静岡支店、(株)NTTデータCCS社会科学システム事業部、NTT宇宙環境エネルギー研究所、(株)アバンアソシエイツ、八千代エンジニアリング(株)、中央復建コンサルタンツ(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、鹿島建設(株)、パナソニック(株)、SOMPOリスクマネジメント(株)、竹中工務店エンジニアリング本部、セコム医療システム(株)運営監理部、(株)モリタホールディングス、(株)ジイケイ京都、時事通信社、国際航業(株)、(株)朝日学生新聞社、TDK(株)グローバルリスク管理部、(株)公職研編集部、日本航空(株)、復建調査設計(株)、日立ソリューションズ、トヨタ名古屋教育センター、読売新聞東京本社、パナソニックリフォーム、東北電力(株)、国家住宅と居住環境工程技术研究センター(中国)、日本原子力研究開発機構、総合地球環境学研究所、(株)都市計画研究所、国際社会開発協力研究所、防災リテラシー研究所、ひょうご震災記念21世紀研究機構、アンチセンス核酸設計研究所、福岡工業大学、広島市立大学情報科学研究科、香川高専、東京工業大学、京都大学防災研究所、東海大学体育学部、常磐大学高等学校、津山工業高等専門学校、東北大学、名古屋大学大学院環境学研究科、宇都宮大学、福岡看護大学、金沢大学、東京大学先端科学技術研究センター、東京大学大学院工学系研究科、九州産業大学建築都市工学部、同志社大学大学院社会学研究科、愛知大学、東京大学公共政策学教育部公共管理コース、四日市大学総合政策学部、高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科まちづくり・防災コース、関西大学社会安全学部、名古屋工業大学大学院社会工学専攻、リスク・フロンティア/電気通信大学、徳島大学、東京理科大学、大阪大学大学院人間科学研究科、岩手県立大学、東北大学教育学研究科、川村学園女子大学、山形大学理工学研究科、聖心女子大学、北九州市立大学、立教大学観光研究所、関東学院大学、和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター、神戸医療産業都市推進機構、社会福祉法人慈光学園、UR都市機構、(一財)住総研、かんまき自主防災ネットワーク、認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸、認定NPO法人人道医療支援会、一般社団法人東京都ボート協会、納屋工房コミュニティデザインラボ、一般財団法人森記念財団、環境関連よろず相談所、一般財団法人日本データ通信協会、AGリサーチ、(一財)武蔵野市開発公社まちづくり課、その他一般個人	122
	122

合計 198

第4回

レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム

ニューノーマルに拠る レジリエンス社会の実現に向けて ~COVID-19がもたらした気づき~

COVID-19を強制的なきっかけとして予期しなかった広範囲な社会の変化が起きている。こういった変化を適切に想定/分析し、迅速な意思決定によって適応していく必要性がこれまで以上に重要視されている。

本シンポジウムでは今回のCOVID-19により迫ら

れた社会変化への対応の中で用いられた技術やそこから得られたポジティブ/ネガティブな気づき、コロナ禍が続く中でも今後起こりうる大規模災害への対応方法などについてご講演いただき、予測できない変化が起こり続けるニューノーマル時代のレジリエンス社会構築に向け多角的に議論する。

開催日時 2021年 **10月13日** 水 13:30~16:40

開催方法 オンライン(Zoomウェビナー)

参加無料
要参加申込

総合司会 西出 隆志 氏 筑波大学システム情報系准教授、リスク・レジリエンス工学学位プログラム

〇13:30-13:35 開会挨拶
佐波 晶 氏 大日本印刷株式会社、筑波大学 准教授(協働大学院)

第1部 講演

- 〇13:35-14:05 講演① コロナ禍における健康リテラシーと政策、世論、及び住民行動との関係
久野 譜也 氏 筑波大学 教授、大学院スポーツウエルネス学学位プログラムリーダー、スマートウエルネスシティ政策開発研究センター長
- 〇14:05-14:35 講演② コロナ禍を通して見えてきた情報社会インフラの姿とスマートシティへの適用について(仮)
田中 淳裕 氏 NEC セキュアシステム研究所 所長
- 〇14:35-15:05 講演③ ニューノーマルで変わるデジタル防災技術
臼田 裕一郎 氏 国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災情報センター長
筑波大学 教授(協働大学院)

第2部 パネルディスカッション

- 〇15:15-16:30 パネルディスカッション
「ニューノーマルに拠るレジリエンス社会の実現に向けて
~COVID-19がもたらした気づき~」
モデレーター 遠藤 靖典 氏 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム副会長、
筑波大学システム情報系教授、システム情報工学研究群長
登壇者 第1部講演者
- 〇16:30-16:40 閉会挨拶
林 春男 氏 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長
国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長



久野 譜也 氏



田中 淳裕 氏



臼田 裕一郎 氏

申込締切

2021年10月12日 火

参加申込QRコード

https://r2ec.jp/4th_symposium/



主催：レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

●お問合せ レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局
(筑波大学システム情報エリア支援室内)

TEL: 029-853-4975 E-mail: r2ec-contact@risk.tsukuba.ac.jp
参加申込URL: https://r2ec.jp/4th_symposium/

令和3年10月13日

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

会 長 林 春 男 殿

協働大学院教員の推挙について（依頼）

筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム

プログラムリーダー 岡 島 敬 一

令和2年4月1日開設の協働大学院方式による「リスク・レジリエンス工学学位プログラム」は、現実社会の問題を見据えて社会に貢献する研究者・高度専門職業人を養成するため、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムとの協働で高度専門型の教育研究プログラムを形成し推進しております。

この学位プログラムでは、4つの研究領域（リスク・レジリエンス基盤、都市防災・社会レジリエンス、環境・エネルギーシステム、情報システム・セキュリティ）の教育研究指導体制を強化・充実させ、実施基盤の構築を進める必要があり、現在までに本学位プログラム専任教員に加え12名の協働大学院教員による教育研究体制を構築して参りました。

この度、本学位プログラムでは、環境・エネルギーシステム領域の体制強化を目的として、化学物質リスク評価を専門とした実用化レベルの実務経験を有する優秀な研究者に協働大学院教員として参画いただきたいと考え、下記のとおり協働大学院教員の推挙をお願いする次第です。よろしくお取り計らい願います。

記

対 象 機 関 ： 国立研究開発法人産業技術総合研究所

対 象 分 野 等 ： 化学物質リスク評価を専門とした実用化レベルの実務経験

職 名 ・ 人 数 ： 教授（協働大学院）または准教授（協働大学院）・1名

以 上

紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としての コンソーシアム活動報告の刊行について

筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム
広報委員会

1. 趣旨

リスク・レジリエンス工学学位プログラム（以下、学位 P）では、年に 1 回のペースで紀要「リスク・レジリエンス工学研究」を刊行している。今年度の紀要（2022 年 3 月刊行予定）より、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの活動報告を、紀要の別冊として刊行したい。ついては、今後原稿執筆の依頼をさせていただくことがあるので、ご協力をお願いしたい。

2. 方針（案）

- ・ 発行者はこれまでどおりリスク・レジリエンス工学学位プログラムとし、本体(学位 P)と別冊（コンソーシアム）の 2 本立てで作成
- ・ 本体には学位 P の記事を例年通り掲載（FD、研究会等の報告含む）
- ・ 別冊にはコンソーシアムの活動報告および会長や参画機関の 2 社程度から寄稿をお願いする

3. 検討事項

- ・ 本体と別冊の 2 本立てで良いか
- ・ コンソーシアムの別冊に掲載して欲しいテーマ（R2 学位 P に望むこと、参画機関の研究所（部門）の紹介、協働大学院教員の研究業績等）

4. 今後のスケジュール

- ・ 11 月の学位 P 教育会議にて本体および別冊の目次案を検討（事前に内諾を取る）
- ・ 目次決定後、順次執筆を正式依頼
- ・ 1 月中旬：原稿締め切り
- ・ 2 月：校正作業
- ・ 3 月：発刊

以上

令和3年10月1日

学群学生
大学院学生 各位

教育担当副学長
加 藤 光 保

本学の活動形態の変更に伴う秋学期における対面授業の実施について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況が改善している状況等を鑑み、本日付で授業に係る本学の活動形態が変更【 <https://www.tsukuba.ac.jp/about/antidisaster-crisismanagement/covid-19/covid-19-20211001.html> 】となりました。

【変更前】：感染拡大に最大限の配慮をして、対面授業、演習・実習を制限しつつ、オンライン授業を中心に行う

【変更後】：感染拡大防止に最大限配慮しつつ、対面での授業を実施できる
オンライン授業の活用も推奨する

この緩和により、オンライン授業から対面授業への変更を行う場合があります。その際は授業担当教員から速やかに授業形態を変更する旨をお知らせしますので、web 掲示板やmanaba 等での連絡事項に留意してください。

また、研究に係る本学の活動形態も緩和されたため、現在オンラインで実施することとされている実験・実習を伴わないゼミ活動についても対面での実施が可能となりました。

なお、今後本学での職域接種等によるワクチン接種の状況等を踏まえ、「密」を避けるための十分な広さの基準等、対面授業の取扱いについて検討する可能性がありますので、今後も大学からの連絡事項には留意してください。

その他授業実施に関して不安や不明な点があれば、授業担当教員に相談してください。連絡方法が分からない場合は、各エリア支援室に相談してください。